

■京都市基本計画「京プラン2025」の策定

■計画改定（2016年3月）以降の社会状況の変化と新たな課題

○ 新型コロナウイルス感染症のまん延
①ウイズコロナ・ポストコロナ社会での市民スポーツの振興 （京都マラソンをはじめ、コロナ禍で大きな影響が生じているスポーツ活動の振興）
②地域等における仲間と運動・スポーツをする機会の大幅な減少
○ 本市の危機的な財政状況
③事業の見直しや民間活力の最大限の活用
④スポーツと他分野との融合による新たな価値の創造
○ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催 並びにワールドマスターズゲームズ2021関西の再延期
⑤市民のスポーツへの関心と機運の高まりを捉えた市民スポーツの振興
⑥アーバンスポーツにおいて増加する競技人口への対応
⑦パラスポーツへの関心の高まり
⑧再延期となったワールドマスターズゲームズ2021関西の機運醸成に向けた継続的な取組
○ レジリエンス・SDGsの取組
⑨少子高齢化や地域コミュニティの低下などの社会環境の変化（指導者やボランティア等の担い手不足への対応など）
⑩ウイズコロナや危機的な財政状況の中でも将来にわたり、市民のスポーツ振興を推進していける仕組みの整備
⑪スポーツ団体同士のつながり・連携の充実
⑫スポーツによる共生社会の推進
○ スポーツにおけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
⑬デジタル技術の効率的、効果的な活用による市民スポーツの振興
○ スポーツの成長産業化
⑭国におけるスポーツの成長産業化の取組として、他産業との融合による新事業創出やスポーツツーリズムの推進
○ 運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツの機会の充実
⑮令和5（2023）年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けた指導者等の人材確保など地域の受皿整備

・計画に掲げる施策の推進 ③⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑭			
新たに追加した施策			
	課題番号	追加施策	取組内容
する	③⑩	11：スポーツ施設の整備・運営における民間活力の更なる活用促進	本市の危機的な財政状況においても、費用負担を抑えながら施設の整備・改修を進めるとともに、管理運営費も含めた経費削減を図るため、民間活力の導入・活用促進に向けた検討を進める。
	⑥	12：アーバンスポーツを楽しめる環境づくりの推進	東京2020オリンピックの開催を受けて、注目が高まっているスケートボードなどのアーバンスポーツについて、関係団体等とも連携しながら、マナーを守って安全に楽しむことができる環境づくりに取り組む。
	④⑤⑭	22：プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進（39.57再掲）	京都サンガF.C. や京都ハンナリーズをはじめとしたスポーツチームとの連携、協力を一層進めるために立ち上げた「京都市スポーツを活かしたまちづくり推進庁内連携チーム」の取組などにより、市民と共にスポーツチームを盛り上げることを通じて市民スポーツの振興を図るとともに、地域との連携を更に深め、地域活性化にもつなげる。（「する」「みる」「支える」）
	①⑩⑬	23：ICTを活用したスポーツの推進	スポーツ界におけるDXの動向や、コロナ禍でのおんらいん京都マラソンの実施及びおうちで簡単体操動画（作成：京都市体育振興会連合会）などの取組の成果も踏まえながら、ICTを活用したスポーツの推進に取り組む。
	①②⑨⑩	29：ウイズコロナ、ポストコロナ社会での市民スポーツの振興（40.58再掲）	スポーツ施設における感染拡大防止対策を徹底するなど、市民が身近で安心・安全にスポーツ活動に取り組める環境を提供する。（「する」「みる」） 市民スポーツの普及・振興に大きな役割を果たしている体育振興会やスポーツ推進指導員等と更なる連携を図り、ウイズコロナ・ポストコロナ社会における市民スポーツの振興に取り組む。（「する」「支える」） 「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」のそれぞれ大きな役割を果たしている京都マラソンについて、ウイズコロナ、ポストコロナ社会に適合し、安心・安全な大会を開催するとともに、魅力を一層高め、更なる進化を図る。（「する」「みる」「支える」） 密になりにくいアウトドアスポーツとして、トレイルやサイクリングなどを推進し、健康づくりに加えて、京都の新たな魅力を体感・発見できる機会にもつなげる。（「する」）
みる	④⑤⑭	39：プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進（22.57再掲）	
	①②⑨⑩	40：ウイズコロナ、ポストコロナ社会での市民スポーツの振興（29.58再掲）	
支える	①②⑨⑩	48：体育振興会・スポーツ推進指導員の更なる活性化	地域におけるスポーツ振興の原動力である体育振興会及びスポーツ推進指導員について、若い世代をはじめとする新たな参加者や担い手の確保など、更なる活性化に向けた取組を進める。
	⑩⑮	49：運動部活動改革の推進と地域における子ども・若者のスポーツ機会の充実にに向けた検討	令和5年度以降の中学校等の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、スポーツ庁に「運動部活動の地域移行に関する検討会議」が設置され、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」で示した方針の具体化に向けた検討に着手されている。 今後、当検討会議で提言される方向性・方策を踏まえ、教育委員会をはじめとする関係部署と連携して、指導者等の人材確保、指導力向上など地域の受皿整備に向けた検討を行う。
	④⑤⑭	57：プロチームをはじめとする地域密着型スポーツチームと連携した地域活性化の推進（22.39再掲）	
	①②⑨⑩	58：ウイズコロナ、ポストコロナ社会での市民スポーツの振興（29.40再掲）	

計画推進のための3つの重点戦略

ハードウェア （スポーツインフラ京都）	ソフトウェア （スポーツウェブ京都）	ヒューマンウェア （スポーツリエゾン京都）
現在の本市の危機的な財政状況の中、民間活力を活かした取組を更に進めることにより、費用負担を抑えながら、スポーツ環境の充実にを図る。	この間の取組やICT化の進展、また、利用者のニーズ等も踏まえながら、次のステップとして、必要な情報にアクセスしやすく、情報を容易に入手できるプラットフォームなどの仕組みづくりを進める。	これまでの取組やICTの進展、「京都市スポーツを活かしたまちづくり推進庁内連携チーム」の発足などといった状況の変化も踏まえ、スポーツ関係団体や民間企業、大学等の間の情報共有及び連携に向けた懇談会を開催するなど、プラットフォームづくりに向けた取組を進める。

共通の視点

- ・市民のスポーツへの関心と機運の高まりを捉えた市民スポーツの振興 ⑤
- ・都市の成長戦略につながる各種団体間の交流・協力・連携の促進、スポーツと他分野との連携・マッチングの推進 ④⑪⑭

本計画の目標に掲げる
2025年の姿の実現

- 1 スポーツを楽しむ、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている
- 2 スポーツを通して、多様な人と人がつながっている
- 3 スポーツを身近に感じ、スポーツがまちの魅力を高めている